

実績報告

診療部

- ・医 局
- ・薬 剤 科
- ・放 射 線 科
- ・臨 床 検 査 科
- ・栄 養 科
- ・心 理 室
- ・医 療 相 談 室
- ・作 業 療 法 科



【部署名】

医局

【職員数】

9名（精神科医7名、内科医1名、（事務員1名））

令和3年度は澁谷理事長、金子院長、川嶋副院長のもと医局で団結・協力をして様々な業務に従事した。鈴木医師には高齢化傾向の入院患者の身体合併症や身体疾患に対して内科医として迅速かつ適切に対応して頂いた。令和4年1月22日に鈴木保穂会長が106歳でご逝去された。

【業務内容】

外来診療と入院診療が主な業務であるが、精神科救急基幹病院として入院診療に重点をおいて対応した。令和3年度も救急患者の受け入れ、措置入院患者の受け入れ、時間外診療を積極的に行った。救急患者や急性期患者のより迅速な受け入れ・治療のため病棟機能の再編を更に進めた。3階病棟が本格的に急性期治療病棟としての役割を担うようになり、治療抵抗性統合失調症治療薬であるクロザピンの導入・治療・管理をすることが多くなった。

地域移行支援のため澁谷理事長が訪問診療を継続、身体科との地域連携も重要であるため澁谷理事長が豊栄病院心療内科外来を継続した。

新型コロナウイルス感染症流行のなかで感染対策には十分な基準・ルールを設けて入院時のスクリーニング検査（抗原検査、PCR検査）や陰圧機能がある感染症外来や対応病床で対応した。

<精神科救急>

令和3年度は、新潟県の精神科救急システムにおいて、月・水・木の夜間のほぼ全て、さらに休日昼間・休日夜間の救急を輪番で担当した。実際には、夜間は平日・休日合わせて年間155日（前年度154日）、休日昼間は年間16日（同16日）を担当した。

その中で、電話対応は1015件（前年度1073件）、診察79件（同78件）、入院74件（同92件）であった。

<地域精神保健への協力>

措置鑑定7件（前年度13件）、措置入院15件（同20件）、また県や市の精神保健に関する各種会議、思春期相談事業、精神医療審査会、簡易鑑定、医療観察法の判定医業務、認知症サポート医、産業医業務などの協力を行った。

新潟市北区において特定健診にあわせて、もの忘れ検診が開始されており、令和3年度も当院は専門病院の役割を担っている。

<会議・委員会>

医局連絡会議；基本的に第2火曜日、午後4時半から30分～1時間で開催された。主な参加者は、医局、事務部長、看護部長、その他必要に応じて各部署の担当者である。同会議では、病院の診療に関わる様々な議題についての報告・議論・提案がなされた。

全体会議；医局医師全員、法人運営会議；澁谷理事長、鈴木医師、金子院長、川嶋副院長、教育委員会；熊田医長、接遇向上委員会；布川医長、倫理委員会；澁谷理事長、鈴木医師、金子院長、川嶋副院長、医療安全対策委員会；川嶋副院長、リスクマネージャー委員会；布川医長、院内感染防止対策委員会；金子院長、澁谷理事長、鈴木医師、褥瘡対策委員会；鈴木医師、NST委員会；鈴木医師、行動制限最小化委員会；橋野医長、医療観察法運営委員会；金子院長、衛生委員会；新澤医師、薬事委員会；澁谷理事長、鈴木医師、金子院長、病院食検討委員会；金子院長、鈴木医師、業務改善委員会；熊田医長、未収金対策委員会；澁谷理事長、金子院長、心理社会療法委員会；金子院長、クロザピン運用委員会；澁谷理事長が担当した。

文責 熊田 智

【今後の展望】

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の流行が収まらない厳しい状況の中、感染対策に試行錯誤しながら、入院医療を必要とする方の迅速な受け入れ・治療のため病棟機能の再編を更に進めた。令和4年度は、精神科救急基幹病院として他の医療機関や関係機関との連携を図り、より良い精神科救急・急性期医療の提供に努力していきたい。また、地域移行支援のため訪問看護ステーションや地域の様々な関連機関と連携し地域医療へ貢献していきたい。

2021年度入・退院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平均入院患者数	270.5	271	276.2	274.9	275	266.7	257.7	241.1	242.9	244.9	253.2	253.9	260.7
入院患者数	60	60	56	57	48	57	50	48	59	54	39	56	644
退院患者数	60	60	53	56	56	68	73	47	60	40	44	56	665
救急病棟入院患者数	34	29	33	34	32	34	33	28	34	33	22	33	379
措置入院患者数	1	1	2	2	0	2	0	1	1	1	2	0	13
応急入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2021年度時間外診療件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来のみ	7	9	8	5	9	13	6	7	5	3	4	3	79
入院受入れ	19	20	12	13	15	19	9	10	10	9	9	8	153

【部署名】

薬剤科

【職員数】

5名（薬剤師3名 事務員2名）

【業務内容】

2013年以降は電子カルテ導入により薬物治療情報が院内において一元化されたため、各部署からの薬剤情報への問い合わせ等も多々ある。その他、各病棟で行われるケースカンファレンスへの参加、各種委員会（リスクマネージャー委員会、院内感染防止対策委員会、褥瘡対策委員会、NST委員会、クロザピン運用委員会等）への参加などチーム医療関連の業務も多く行っている。また、コンサータの流通管理システムへの患者登録や処方登録なども医師の業務の負担軽減のために行っている。また医療安全面からの職員への薬物投与時等における教育・啓蒙活動、更には適正な薬物治療を目指した抗精神病薬の単剤化やスイッチング、持効性注射剤の積極的導入も医師を始めとした各職種と連携しながら行っており一定の成果を挙げている。

【今後の展望】

精神科救急病棟の開設により様々な患者の入院が想定される中、薬剤科としてはそれに伴う患者への薬学的関わり（持参薬管理における相互作用チェック、服薬指導等による服薬アドヒアランス向上、クロザリルの導入準備における副作用評価など）を行うことで、患者さまの地域生活に向けてスムーズな治療、積極的な退院へと結び付けられるよう各専門職と協働しながら、更には薬剤師独自の服薬指導等で得た情報を医師に還元することにより、安全で適切な薬物治療がなされるよう努力していきたい。また病院経営への寄与ということで、持効性注射剤の購入・管理体制の改善、先発医薬品の積極的な後発品への変更、期限切れによる廃棄薬剤の減少、医薬品の供給体制が不安定な中での薬剤の確保やスムーズな変更にも対応しているところである。さらに病棟機能ごとによる薬剤の適正使用も検討し、新しい精神科の薬剤科として対応できるようにしていきたい。

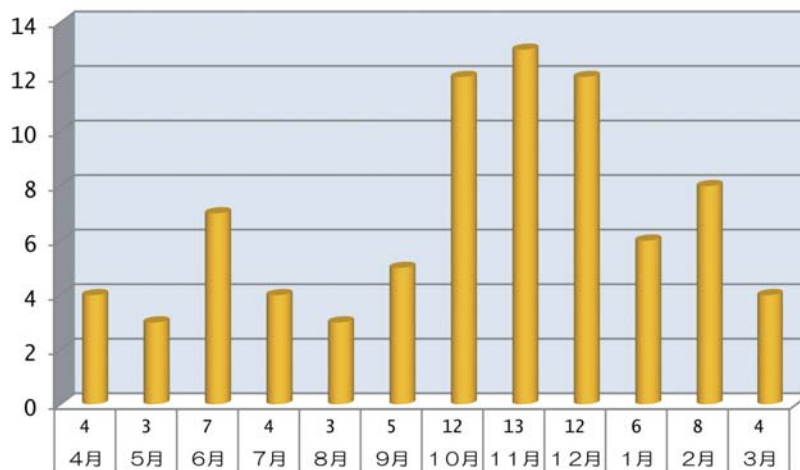
文責 小形 英恵

【実績】

① 薬剤管理指導料件数

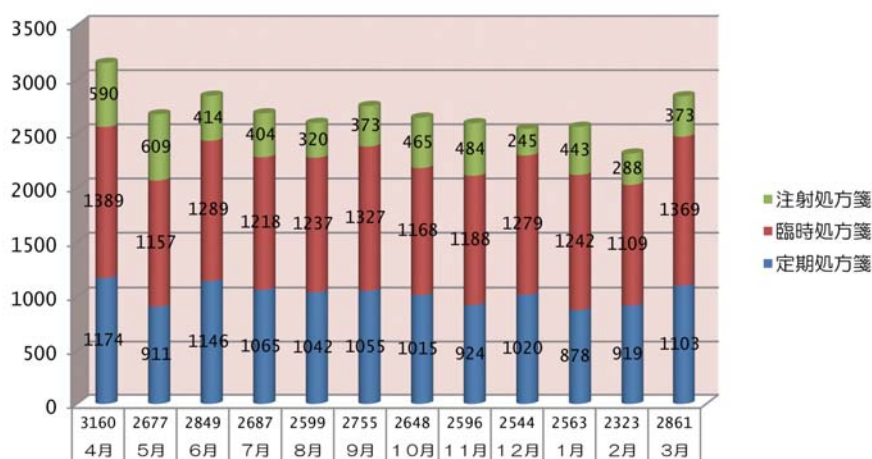
(薬剤管理指導料1・退院時薬剤情報管理指導料の合計件数)

薬剤管理指導料総件数



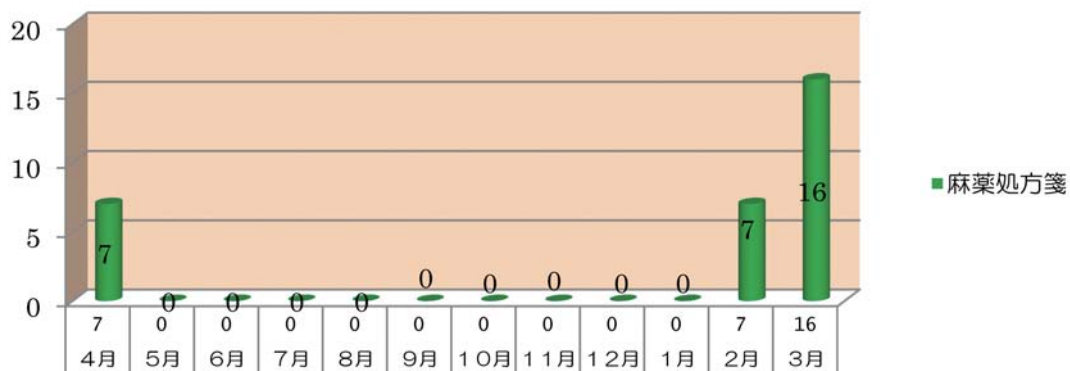
②処方箋枚数 (定期・臨時・注射処方箋)

処方箋枚数 (定期・臨時・注射処方箋)



③処方箋枚数 (麻薬処方箋)

処方箋枚数 (麻薬)



【部署名】

放射線科

【職員数】

2名（診療放射線技師2名）

【業務内容】

放射線科は、外来患者と病棟入院患者に対して医師の指示のもとに放射線を用いた画像検査と、画像データ管理及び放射線管理、放射線医療機器管理等の管理的業務を行う。

1. 一般撮影の実施

- (1)胸部単純（種々の胸部疾患の有無の確認、経鼻胃管挿入後の位置確認）。
- (2)腹部単純（腹部膨満や腹痛等の原因となる腹部疾患の有無の確認）。
- (3)全身骨・関節（転倒や打撲に伴う骨折の有無、関節痛や腫脹の原因となる疾患の有無の確認）。

2. 単純CT検査の実施

- (1)頭部単純（頭蓋内病変の精査・経過、長期入院患者の定期的な頭部CT検査の実施）。
- (2)胸部単純（肺疾患等の検索及びその経過観察）。
- (3)腹部単純（腹部疾患等の原因となる腹部臓器の異常の検索）。
- (4)その他の単純（胸腰部疼痛の原因検索、頭頸部の腫脹等の精査、四肢の発熱の原因検索など）。

3. 画像データの管理と読影補助、PACS（医療用画像管理システム）の管理等

- (1)検査後の撮影画像をPACSへ転送し、その画像データの管理及び医師のモニタ読影の補助。
 - ・CT検査画像に関しては外部の読影専門機関へ画像データを送信、読影の依頼。
 - ・外部機関より届いた画像診断専門医による読影レポートのPACSへの保存管理。
 - ・読影レポートの内容を電子カルテへ「CT検査所見」として転記作業。
- (2)PACSの機器管理。
 - ・保存画像データの定期的なバックアップ作業等。
- (3)他医療機関との医療連携による画像データ管理。
 - ・他医療機関提供の記録メディア（CD、DVD）内画像データのPACSへの取り込み作業。
 - ・他医療機関へ提供の為にPACSから記録メディア内へ画像データ書き込み作業。

4. 日常業務における医療機器（X線機器とPACS）の始業時及び終業時の点検作業

5. 医療機器の保守点検の実施と放射線診療室の漏えいX線線量測定の実施

- (1)医療機器メーカーによる保守点検計画に基づいた保守点検実施時の立会。
 - ・CT装置は年2回、一般撮影装置とPACSは年1回の実施。
 - ・保守点検の結果の確認と評価。
- (2)線量測定委託業者による一般撮影室とCT検査室周辺の漏えいX線線量測定時の立会。
 - ・測定結果の確認と評価。

【今後の展望】

1. これまで通りに医師の指示のもと一般撮影とCT検査を行っていく。長期入院患者では頭部CT検査を定期的の実施することで頭蓋内病変等の早期発見に務めていく。
2. 医療機器の始業時点検及び終業時点検並びに保守点検の実施と、安全管理（X線被ばく線量の低減を含む）に務めていく。また、院内の診療用放射線に係る安全管理体制に助力していく。
3. 2020年度でCT装置の耐用年数10年を迎えた。検査の多様化に伴いCT検査件数も増加傾向にある。CT装置の更新も踏まえて今後の運用方法を検討中。
4. 一般撮影CRシステムPCの修理対応期限が終了になるため、PC並びにソフトウェアの更新を行う。令和4年4月に更新作業予定とする。

文責 馬場 透

【実績】

〈画像検査数〉

1. 一般撮影回数

撮影部位	回数		
	2019年度	2020年度	2021年度
胸部	690	695	707
(内訳:胃チューブ確認)	(178)	(136)	(148)
腹部	44	42	43
全身骨・関節	135	159	118
総数	869	896	868

2. CT検査数

検査部位	件数		
	2019年度	2020年度	2021年度
頭部	709	761	791
頭頸部	1	3	3
胸部	151	185	176
腹部～骨盤部	79	81	111
胸部～骨盤部	31	77	153
四肢	1	5	4
A i *1	1	3	2
総数	973	1,115	1,240

*1 A i : 死亡時画像診断 (頭部及び体幹部)。

〈医療機器保守点検及び漏えいX線量測定〉

医療機器	保守点検実施月日	漏えいX線量測定月日
一般撮影装置	2021年09月21日	(1)2021年08月11日 (2)2022年02月07日
全身CT装置	(1)2021年08月11日 (2)2022年02月07日	
CR装置	2021年11月16日	
PACS	2021年11月16日	

〈他医療機関との診療画像の送付及び受取件数〉

診療画像	2019年度	2020年度	2021年度
他医療機関への送付	61	67	101
他医療機関からの受取	70	59	88

【部署名】

臨床検査科

【職員数】

3名（臨床検査技師3名）

【業務内容】

入院患者及び外来受診者の臨床検査（検体検査・生理検査等）を実施している。検体検査では入院患者に対し原則毎月1回の定期採血（肝機能・腎機能・糖脂質・血球算定等）を実施し身体的変化をフォローしている。また定期採血に合わせて向精神薬の薬剤血中濃度も同時に測定し薬剤治療における適切な治療域管理を行っている。外来受診者においても年1回の採血を原則とし病態及び服薬状況に合わせて検査頻度を変え身体的状況の把握や精神薬治療域管理に努めている。

生理検査では主に抗精神病薬副作用のモニタリングとして心電図検査を定期的に行っており、各病棟（急性期・身体合併等）の形態に合わせて検査頻度を設定し薬剤副作用及び心疾患の早期発見に努めている。脳波検査は医師の指示を受けて個別に実施している。外来受診者においても入院患者と同様に検査を実施している。

職員健診は年2回実施し、春の健診は全職員を対象に、秋の健診は夜勤業務従事者を対象として主に採血及び心電図検査を行っている。

微生物検査についてはCOVID19のPCR並びに抗原検査やインフルエンザ、ノロウイルス等の感染性疾患の抗原検査を行っている。また感染症発生状況及び薬剤耐性菌検出状況の把握並びに感染症発生時のICTによる感染防止対策への参加、合わせて組織全体への院内発生状況の周知を実施している。

その他にも看護師を対象に検査技師不在時に用いるPOCTの使用方法についての勉強会を開催している。

【今後の展望】

今年度は検査システムの入れ替えを行った事により大幅な業務効率化が図れた。検査システムに試薬在庫管理機能を追加したため、試薬の出入庫がバーコードで行えるようになった事から台帳への入力作業が削減され業務の大幅な効率化が図れた。

また新型コロナウイルス感染症対策を行うにあたり、より迅速に対応するためPCR検査の導入を行った。

新型コロナウイルス感染症対策は今後も継続した対策が必要と考えられる。また次々と感染症が発生しており、それに対応した新しい検査法や既存より簡易かつ安価な製品が日々開発され状況は常に変化している。より安全安心な患者サービス提供のため、絶えず新しい情報を収集し業務にフィードバックしていきたいと考える。

文責 村木 憲一

【実績】

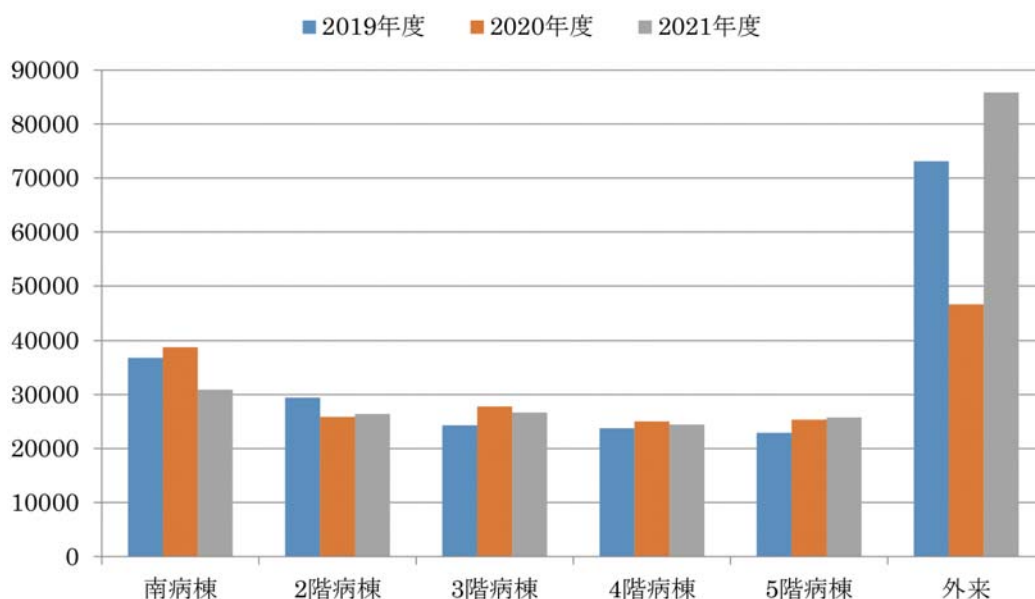
検体検査実施実績一覧

	2020年度	2021年度
南病棟	38,758項目 (内TDM174件)	30,894項目 (内TDM116件)
2階病棟	25,857項目 (内TDM 93件)	26,393項目 (内TDM105件)
3階病棟	27,786項目 (内TDM283件)	26,687項目 (内TDM188件)
4階病棟	25,012項目 (内TDM267件)	24,442項目 (内TDM312件)
5階病棟	25,352項目 (内TDM177件)	25,759項目 (内TDM231件)
外来	46,586項目 (内TDM295件)	85,850項目 (内TDM578件)
職員健診	4,171項目	3,930項目
合計	193,522項目 (内TDM1,289件)	220,025項目 (内TDM1,530件)

生理検査実施実績一覧

	心電図検査実績	脳波検査
南病棟	204件	26件
2階病棟	83件	1件
3階病棟	168件	27件
4階病棟	123件	8件
5階病棟	131件	5件
外来	1358件	15件
職員健診	129件	0件
合計	2196件	82件

検体検査実績



【部署名】

栄養科

【職員数】

2名（管理栄養士2名）

【業務内容】

全病棟の患者を対象に栄養管理計画書を医師、看護師、薬剤師、管理栄養士が共同で作成している。特別な栄養管理が必要とされた患者には栄養計画を掲示、定期的にモニタリングを行い、適切であるか評価している。毎月BMIを算出し、入院患者の低体重や肥満者の比率を出している。低体重や低Alb値や肥満の場合、病棟や患者名、BMIを記載し、低栄養患者や肥満患者が毎月何名いるか一覧表を作成している。低栄養の早期発見として半年で5kg以上体重が減少した患者の一覧も月ごと栄養科で作成している。毎月のNST委員会に参加し、低栄養・肥満患者の一覧表はNST委員会の参考資料として使われ、他職種との情報共有に活用している。

栄養指導指示箋に基づき、入院・外来患者に栄養指導を行っている。また入院・外来患者向けに「みなみはま栄養たより」を作成し、テーマに沿った健康や栄養に関する情報提供をしている。

検食簿や毎月の残菜調査結果を参照し、給与栄養目標量に基づいた献立作成をしている。病院食検討委員会やご意見箱で挙げられた意見を参考に行事食やイベント食のほか、地産地消メニューを提供している。委託会社と協力し、食材料管理・衛生管理・施設設備管理を行っている。

【今後の展望】

日々の栄養管理や栄養指導を行うことで、入院中や在宅でも患者自身が健康管理に取り組めるよう支援する。また、委託会社と連携し円滑な給食管理を行うとともに感染予防対策を徹底し、感染を拡げない行動をとる。

文責 小嶋 萌

【実績】
① 提供食事数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院	23,737	24,373	24,100	24,625	24,806	23,338	23,230	21,362	22,201	22,376	20,913	23,083

② 栄養指導件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院	70	44	61	70	30	51	66	53	54	57	59	64
外来	7	7	9	6	6	8	11	6	7	10	6	11

【部署名】

心理室

【職員数】

4名（公認心理師4名）

【業務内容】

主に外来・入院患者様を対象に個人への心理検査や心理面接（カウンセリング）、グループでの回想法や心理教育、患者様のご家族を対象とした心理教育（家族相談会）を行っている。その他、提携企業や福祉事業所などへの定期的なメンタルヘルス研修や行政からの依頼による研修や講演活動も行っている。

心理検査は、質問紙法や投影法といった検査用具を用いて、患者様の病態水準や病状理解、性格傾向の把握などを行い、治療の援助や診断の補助、心理面接へのアセスメントとして活用している。

心理面接は、対象患者様の生活歴や治療歴、家族関係、また心理検査からの情報によるアセスメントにもとづき精神的な心理療法や認知行動療法、家族療法など患者様の治療に有用な心理療法を用い、その方が困っている生活上の問題を自身でコントロールできたり、過去のトラウマや葛藤体験の整理を促したりし、更なる精神的な発達とよりよい生活への支援を行っている。

患者様のご家族への心理教育では、家族に対する病気や薬への疾病教育と、家族の抱えている困り事や問題を家族同士でそれぞれの体験を活かして話し合うグループワークを一緒にした家族相談会を企画し、他職種スタッフと共に実施している。近年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、グループでの開催は中止しているが、医師の指示や病棟からの依頼により、単家族での家族心理教育は行っている。

その他、地域の企業や行政に出向き、ストレスケアを中心としたメンタルヘルス研修や家族相談会を実施し、地域貢献にも協力しているが、こちらも新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、近年は中止となっている。

今年度は密となる事業に関しては、未だ自粛せざるを得ない状況であったが、感染対策にも慣れてきており、心理面接も対面が変わり、通常の業務に戻りつつある一年であったが、特に大きな問題なく、業務を行うことができたのではないだろうか。

【今後の展望】

近年、自閉スペクトラム症や注意欠如多動症といった神経発達障害群が社会的に認知されてきており、当院にも診断を目的とした受診が増えている。診断の補助のために心理検査も増え、カウンセリングの依頼も増えつつある。これらの群は、薬物を必要とする症状もあるが、特性による生活のしづらさ、生きづらさからくるストレス対処も必要となり、当部署の役割も重要になってくる。近年では、ゲーム障害等の嗜癖の問題もメディアに取り沙汰されてきており、社会の変化による様々なニーズの患者様が来院されると思われる。今後も日々研鑽し、患者様のニーズに沿った支援ができるよう努力したいと考える。

文責 中川甚一郎

【実績】

心理検査：316件

心理面接：2184件（対面カウンセリング） 60件（電話カウンセリング）

病棟グループ（心理教育、回想法など）：36件

家族への心理教育：新型コロナウイルス感染対策のため開催中止

企業・行政へのメンタルヘルス研修：1件（近隣中学へのメンタルヘルスの授業）

【部署名】

医療相談室

【職員数】

9名（精神保健福祉士9名）

【業務内容】

- ・医療福祉相談
- ・転入院調整
- ・入院者退院支援
- ・インテーク面接
- ・他機関連携業務
- ・外部会議出席
- ・各種プログラム協力
- ・各種調査、アンケート協力
- ・共同住居管理
- ・精神保健福祉援助技術実習の受け入れ 等

【今後の展望】

相談件数は年々増加しており、抱えている生活上の課題や困難も多様化している。急を要する状況や場面も増え、迅速かつ的確な対応が求められている。保健医療福祉介護分野に限らず、教育・労働・司法分野からの相談も年々増加しており、幅広い知識や技術の習得と対応力の向上が必要である。また、数年前より共同住居入居者の高齢化や生活能力等の低下が課題となっている。入居者の意向を尊重しつつ、他部署・他機関と連携・協働を図りながら対応していきたい。

医療機関における精神保健福祉士の役割と責務を考えつつ、常に地域へ目を向けながら、生活に視点を当てた支援や活動を展開したい。

文責 吉川 牧子

【実績】

精神保健福祉士業務実績（病棟精神保健福祉士を含む）

（単位：件）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診・受療 援 助		366	333	466	370	399	434	368	354	387	359	389	448	4,673
転院相談		77	48	95	92	54	73	73	43	37	80	89	54	815
経済問題 援 助		26	14	17	10	16	15	40	13	18	11	17	6	203
背景把握		204	195	262	248	252	223	238	162	208	194	182	280	2,648
治療・療養 上の援助		250	211	297	250	251	256	164	173	228	184	219	229	2,712
社会・家庭生 活上の援助		101	76	101	96	110	122	134	91	107	85	95	105	1,223
制度利用 援 助		194	188	210	176	208	188	164	188	139	154	139	146	2,094
介護保険 相 談		177	123	124	121	87	115	90	96	104	84	100	80	1,301
退院・社会 参加への援助		199	221	333	237	226	215	272	231	172	246	158	232	2,742
アフターケア・ 訪問看護		54	75	76	57	94	60	44	95	101	65	79	96	896
そ の 他		224	158	120	153	155	127	179	148	130	145	124	130	1,793
援助 方法	面 接	505	456	584	490	468	462	480	454	520	470	452	549	5,890
	院 内 調 整	221	181	246	207	189	211	219	185	197	189	217	229	2,491
	電 話 文 書	1,138	997	1,264	1,100	1,157	1,151	1,060	944	910	945	919	1,023	12,608
	院 外 訪 問	8	8	7	13	38	4	7	11	4	3	3	5	111
総 数		1,872	1,642	2,101	1,810	1,852	1,828	1,766	1,594	1,631	1,607	1,591	1,806	21,100

各項目は新潟県医療社会事業実績報告等を基準として分類

精神保健福祉士業務年次推移

（単位：件）

年度（年）	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
延べ件数	15,168	13,454	19,386	15,804	14,969	16,253	20,227	21,100
月平均	1,264	1,121	1,615	1,317	1,247	1,354	1,685	1,758

2021年度 共同住居入居者数

（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
金権家 （定員13）	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8
吉田家 （定員12）	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

【部署名】

作業療法科

【職員数】

12名（作業療法士11名 看護補助員1名）

【業務内容】

精神障害を発症、または症状が悪化したことにより入院治療が必要となった方への治療として、薬物療法と併用して心理社会的治療法の一環として精神科作業療法（以下；OT）を行う。薬物療法で急性期症状が軽減した頃に、集団での人間関係の中で実際の軽作業やレクリエーションなどの活動を行うことで、体力・持久力・集中力・忍耐力、そして協調性・社会性といった生活機能を再び取り戻していくためのリハビリテーションプログラムを行っている。また、通院者を対象にした外来OTでは外出のきっかけとして居場所の提供や自己啓発の場としている。近年では入院患者の高齢化に伴い、転倒の危険性も高まっているので、廃用症候群の防止を目的に個人OTを行うなど身体面へのアプローチも行い、予防対策に取り組んでいる。他に身体拘束となった対象者に対する深部静脈血栓症予防プログラムの立案を行い、病棟職員へ教授している。

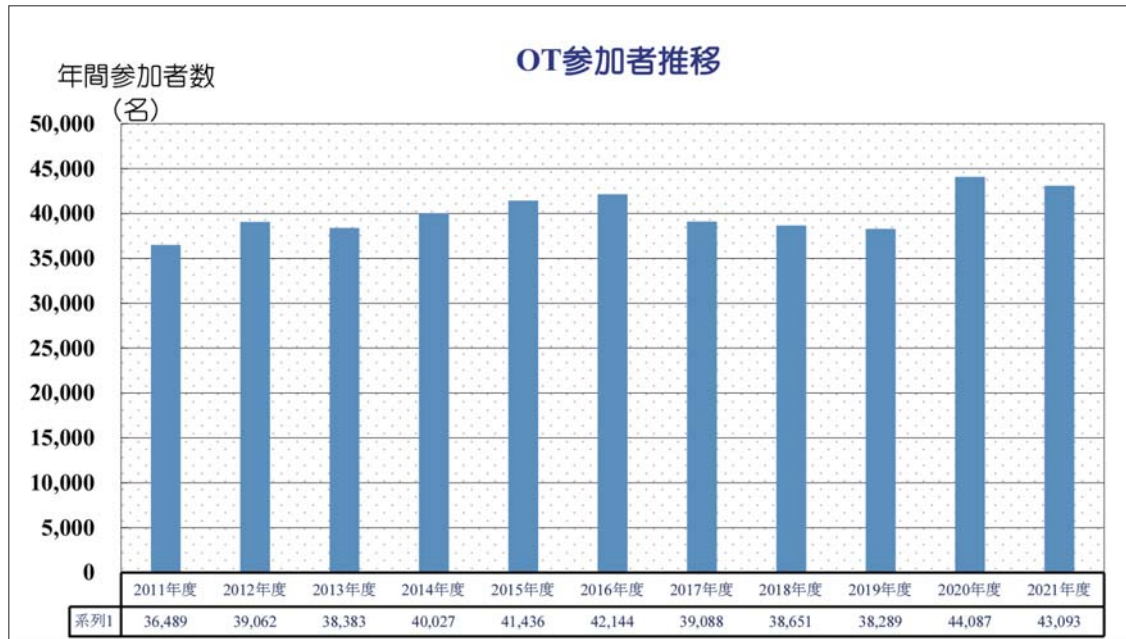
【今後の展望】

外来OTが週5回に増えたことで外来OTの参加者増加を目指すとともに活動内容の充実を図り、通院者への支援を強化していきたい。また、患者の意見を取り入れ、2021年度より南病棟では1階の活動を週2回から4回に増やした。南病棟以外の病棟でも患者の意見を取り入れながら、その時々最適な活動を臨機応変に提供していきたい。作業療法科の基本方針「安全で楽しく」を継続し、リスクの可能性を考え、予測義務・回避義務を果たしながら、楽しく自主的に参加して頂け、効果が実感できるようなプログラムを提供し続けられるよう、常に見直し実践していく。

文責 布施江利子

【実績】

◇OT参加者の経年推移



※1999年5月開設以来、23年目を迎えている

◇月単位の参加者数

〈単位：人〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実数	4,029	3,351	4,162	3,649	2,612	3,522	3,834	3,598	3,774	3,281	3,317	3,962	43,091

◇病棟単位での参加者数

〈単位：人〉

病棟	南病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟	合計
実数	4,894	10,177	6,398	9,042	10,207	40,718

◇2021年度 外来OT参加者数

〈単位：人〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実数	206	160	203	186	113	191	206	216	240	195	197	260	2,373

◇2021年度 個人OT実施者数と延べ回数

〈単位：人〉

病棟	南病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟	合計
対象人数	10	62	2	1	5	80
合計回数	75	226	15	9	28	353

◇2021年度 身体拘束者に対する深部静脈血栓症予防プログラム提供数

病棟	南病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟	合計
合計回数	36	7	26	8	13	90

